



建築人

2
2017



大阪ホンマもん

二〇一六年十一月十八日、「公共建築の日及び公共建築月間中国地方イベント」として、島根県江津市主催の「モダニズム建築と江津市庁舎とを考える」と題するシンポジウムが開催され、パネリストの一人として参加する機会があった。江津市庁舎は、早稲田大学教授・吉阪隆正（一九一七～八〇年）の研究室が設計を手がけ、一九六二年に竣工したが、竣工から五〇年以上が経ち、その将来像と建物の歴史的な意味を考えるために企画された催しだった。おりしも、二〇一六年に DOCOMOMO 選定建築物に選ばれたので、シンポジウムに先立ち、選定プレートの贈呈式と記者会見も行われた。私事ながら二〇年ぶりの再訪となる。

この建物にはじめて触れた時の印象は今も鮮明だ。吉阪建築のもつ土本的なスケール感が周囲に及ぼす環境造形的な意味と、地元の赤い石州瓦を用いた床や外壁の土着的な力強さが圧倒的な存在感を醸し出していた。その後、木製の開口部がアルミのカーテン・ウォールに改修されて、大きく外観が変更されたと伝え聞いていたので、今回は恐る恐るの再訪となった。たしかに、赤く塗られていた外周の大梁の骨太な構造体は既製品のアルミのカーテン・ウォールにすっぽりと包まれてしまい、始原的な力強さは大きく損なわれていた。それでも、山陰本線を見下ろす丘の上に立つ独特の存在感は健在であり、石州瓦を散りばめた床や外壁、厚みのある階段の木製手すりや真鍮製の階数表示など、使い込まれた細部も静かに息づいていた。そして、屋上へ上ると、背景の山々と目の前の町並み、戦後に建てられた工場群と遠くに見える日本海が一望でき、江津の歴史と風土が体感できた。

庁舎建設時の江津市の建築係長が残した

メモによれば、吉阪が最初に現地を訪れたのは、一九五九年八月のことだったという。一九五〇年から二年間、早稲田大学助教を退職し、フランス政府給付留学生としてパリのル・コルビュジエのアトリエに学び、一九五二年に帰国して母校に戻った吉阪は、精力的な設計活動をスタートさせる。すでにパリでスケッチをしていた自邸やヴェネチア・ビエンナーレ日本館を手始めに、海星高校や呉羽中学校といった学校施設、そして日仏会館などを次々と手がけていた。

記憶の建築

松隈 洋

江津市庁舎 1962 年

吉阪隆正が遺した公共空間を未来へ



山陰本線の線路越しに見る建物全景



正面入口前のピロティ広場

南米においてさえ、市庁舎前の広場は市民たちが、自分らの自由と独立を求めるために集まる場所であった。社会生活の秩序すべてを自分の手になっっている具体的な証拠は、この市民広場において感じられていたのである。（中略）市役所は単に出生、死亡や婚姻届、あるいは納税だけの事務を扱かうところではないはずだ。（中略）実はもっと切実に自分たちの社会の改善をこの機関を通じて行なうべく場所なのである。市民のためのものであることが第一で

しかし、この江津市庁舎は、吉阪にとって初めての庁舎建築であり、地元の工場関係者とのつながりから設計を依頼された際、特別な思いを抱いたのだろう。竣工後に記した文章は、次のような言葉で始まる。

「独立、自治、そしてその集団の団結を象徴するモニュメント、それはまた町全体のヘソを形成するものであり、自分らの自由を獲得してきた歴史的な記録、そういったものが西欧諸国の市庁舎であった。（中略）

なければならぬ。」（吉阪隆正「市庁舎建築について」『新建築』一九六二年六月号）

父の俊蔵がILO政府随員としてスイスのジュネーヴに長く派遣されていたために、幼少年期をヨーロッパで送った吉阪には、市庁舎と広場は、「市民のためのものである」という自覚と期待があったのだろう。また、設計に着手した直後の一九五九年十一月には、おりしも、ル・コルビュジエが国立西洋美術館の敷地視察のために来日し、

吉阪は、彼を自邸に案内した直後にも江津を再訪している。この市庁舎の設計に意気込んでいた姿が目につく。しかし、余りにも壮大な構想となったことも災いしてか、予算超過や入札の不調にも遭遇する。それでも、敷地条件や地盤の状態を考慮しつつ、土木構造家の協力も得て、建物を三棟に分棟化し、それぞれに相応しい機能と構造を見つけることで困難を克服していった。

こうして、長方形プランの内部に柱のない開放的な二層の事務室が橋脚のような逆V字型の柱によって空中高く持ち上げられ、その下のピロティは敷地の奥に広がる松林の小山へと続く市民広場となり、渦巻き状の階段と直接二階事務室へつながるブリッジも架けられた独創的な建築が誕生する。先の文章は次の言葉で終わっている。

「落成式当日、ここで軍楽隊の演奏があったし、すぐ手前には舞台がつくられて、一日中市民はこの広場に集まって楽しくすごした。（中略）私は市民はきっとこの広場を愛し、市庁舎を自分らのものとし、市を発展させるようになるだろうと信じる。」

江津市は、先行する耐震診断判定委員会での検討作業を踏まえて、今回のシンポジウム開催と併行する形で、別敷地に新庁舎を整備しつつ、現庁舎を保存再生する、という画期的な方針を打ち出し、二〇一六年十二月、公募型プロポーザルによって設計者を選定した。吉阪が求めた市民のための市庁舎はどのように再生されてゆくののか、その未来を期待を込めて見守りたいと思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

講師 大阪府建築士会所属女性建築士
定員 50名(定員に達し次第締切)
受講料 無料
テキスト 「安心・安全・安らぎの家」冊子
(参加者全員に進呈)
申込締切 3月6日(月)
(公社)建築技術教育普及センターの平成28
年度普及事業助成金による事業

大阪地域貢献活動部会 平成29年度助成対象活動募集

建築士と地域住民等が連携して進めるまちづ
りなどの地域貢献活動に対して、本会が活動
費の助成などを行います。
募集期間 平成29年2月28日(火)まで
対象とする活動
原則として建築士と地域住民等で構成する
団体が、地域住民等と連携して進める地域
貢献活動で、営利を目的としない活動。
助成額 1件の助成額は30万円を限度
※募集案内は今月号に同封しています。

訂正とお詫び

建築人1月号の9ページにおきまして、誤り
がございました。ここに訂正とお詫びをいた
します。
(誤)加藤邦夫 (正)加藤邦男

本会の催し参加問合・申込先

大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Administration

行政からのお知らせ

エコハウス提案会 3/7

すまいの省エネに関する企業や情報が集積す
る「おおさかATCグリーンエコプラザ」が最新の
エコハウス・エコリフォームについて提案を行
います。東京大学の前准教授他を招いてのセミ
ナーも開催します。
主催 ATCグリーンエコプラザ
(大阪市 日本経済新聞社 ATC(株))
日時 3月7日(火) 13:00~17:00
会場 ATCグリーンエコプラザ
大阪市住之江区南港北2-1-10

定員 200名(事前申込制)
参加費 無料
詳細・申込 <http://www.ecoplaza.gr.jp>
問合 ATCグリーンエコプラザ 安田
Tel.06-6615-5888

Others

その他のお知らせ

講習会「建築物の風応答・風荷重評 価とCFDの適用ガイド」(大阪開催) 2/27

本講習会では、「建築物荷重指針を活かす設
計資料2—建築物の風応答・風荷重評価／
CFD適用ガイド」をテキストとし、建築物荷
重指針を用いて建築物の風応答や風荷重を
適切に評価する方法、ならびにそれらに対して
CFDを適用する方法や注意事項を示します。
主催 (一社)日本建築学会構造委員会荷重
運営委員会
日時 2月27日(月) 13:00~17:00
会場 大阪科学技術センター4階404号室
大阪市西区靱本町1-8-4
受講料 本会会員14,000円(テキスト代含)
定員 80名
問合 (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538

講習会「鋼構造柱脚設計施工ガイ ドブック」(大阪開催) 3/1

対象を鋼構造建築物における柱脚に特化し、
力学挙動と設計法の関わりを解説し、併せて施
工上の留意点を解説する「鋼構造柱脚設計施
工ガイドブック」の講習会です。
主催 (一社)日本建築学会構造委員会鋼構
造運営委員会
日時 3月1日(水) 10:30~16:15
会場 大阪科学技術センター4階401号室
大阪市西区靱本町1-8-4
定員 100名
受講料 本会会員11,000円(テキスト代含)
テキスト 「鋼構造柱脚設計施工ガイドブック」
問合 (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
<http://www.aij.or.jp/>

建築物の防火・避難対策と建築基 準法、消防法における防災関係規 定講習会(大阪開催) 3/7

日本建築防災協会が、例年、建築物防災週間
協賛行事として開催しています「建築防火・防
災講習会」です。

主催 (一財)日本建築防災協会
日時 3月7日(火) 13:00~16:45
会場 大阪府建築健保会館6Fホール
大阪市中央区和泉町2-1-11
内容
・建築物の防火・避難対策について
・建築基準法における防災関係規定
と防・耐火構造・材料及び建築指導
行政の最新の動向について
・消防法における消防用設備の設置・
維持に関する規定及び火災予防行
政の最新の動向について

定員 150名
受講料 7,000円(テキスト代含)
申込締切 2月28日(火)
但し、定員になり次第締切
問合・申込 (一財)日本建築防災協会
Tel.03-5512-6451
<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/>

建築の記憶 大阪万博の建築 3/25~7/4

大阪万博のパビリオン建築の構想段階の設計
図や模型写真、建設現場記録など、大阪万博
会期の前後のプロセスを、これまで公開される
機会の少なかった資料を中心に紹介します。
会期 3月25日(土)~7月4日(火)
時間 10:00~17:00(入館16:30まで)
休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は翌日
の木曜日。但し、4/1からゴールデン
ウィークまでは無休)
観覧料 一般400円(別途自然文化園入園料が必要)

◆開催記念 対談
「建築の記憶—大阪万博の建築」
日時 3月26日(日) 14:00~16:00
会場 EXPO'70パビリオン
万博記念公園自然文化園内
定員 80名
参加費 無料(要展覧会チケット)
登壇者 橋爪紳也(大阪府立大学教授)
大西若人(朝日新聞編集委員)
申込期間 2月25日~定員なり次第締切
申込方法 メールで事前申込制、先着順
件名に3/26大阪万博の建築参加希望、
本文に氏名、フリガナ、TEL明記
Mail:banpakuevent@bmkkc.or.jp

◆「鉄鋼館ガイドツアー」
日時 4月15日(土) 14:00~16:00
会場 EXPO'70パビリオン展覧会場入口集合
定員 15名
参加費 4,580円(保険代、防具など)
案内人 橋爪紳也
申込期間 3月1日(水)~3月10日(金)
(消印有効)
申込方法 往復はがきで応募、抽選
はがきに氏名、フリガナ、住所、TELを明記
抽選結果は返信用はがきにてお知らせ
送付先 〒565-0826 大阪府吹田市千里
万博公園 EXPO'70パビリオン宛

◆特別プログラム
「大阪万博記録映画祭vol.1—建築編」
日時 5月20日(土) 14:00~16:00
「大阪万博記録映画祭vol.2—パビリオン編」
日時 6月17日(土) 14:00~16:00
会場 EXPO'70パビリオン
定員 先着30名
参加費 無料(要展覧会チケット)

申込 当日10時より、電話またはEXPO'70
パビリオン受付カウンターまで
問合 EXPO'70パビリオン
Tel.06-6877-4737
<http://www.bmkkc.or.jp/expo70pavilion/>

木造回帰が切り拓く建築の未来~ 関西広域木造建築普及促進協議会 発足記念事業 3/30 CPD5単位(予定)

木材資源の状況、木造建築の普及推進への施
策や法令改正と技術革新による新たな展開、また
木造回帰が切り拓く建築の未来についての講演
会です。綿業会館見学会、懇親会も実施します。
主催 (一社)大阪府木材連合会
共催 (公社)大阪府建築士会
日時 3月30日(木) 13:00~20:00
講師 腰原幹雄、長谷見雄二、五十田 博、
黒田慶子
会場 綿業会館新館7階大会場
大阪市中央区備後町2-5-8
最寄駅 地下鉄御堂筋線本町駅
参加費 講演会・綿業会館見学会／無料
懇親会／7,000円
定員 講演会150名、綿業会館見学会70名、
懇親会100名(各申込先着順)
申込 事業名、参加希望内容、氏名、フリガナ、所属団
体、勤務先名・所属部課名・住所・TEL・FAX、
携帯番号を明記のうえ、FAXして下さい。
申込先 (一社)大阪府木材連合会
Fax.06-6531-9184

大阪市立美術館 特別展「改組新第3回日展」 2/18~3/20

本展覧会は、東京会場から始まり、京都、名古屋、
大阪、富山の順に巡回し、全国を巡回する
作品と地元作家作品を展示します。大阪展で
は、会員作家及び今回の入賞者による基本作
品247点と、大阪・兵庫・奈良・和歌山に在住す
る会員作家の作品や入選作品などの地元作品
341点、あわせて588点の作品を陳列します。
会期 2月18日(土)~3月20日(月・祝)
時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜(3/20は開館)
会場 大阪市立美術館(天王寺公園内)
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
入館料 一般1,000円(前売800円)
※前売券発売所=主なプレイガイド、コンビニ
エンスストア
問合 大阪市総合コールセンター
Tel.06-4301-7285
<http://www.osaka-art-museum.jp/>



洋画「働く人」天野富美男

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

- 耐震診断報告書の審査、評価
- 耐震補強計画案の審査、評価 等 (対象建築物)
- 公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成28年度建築士定期講習 3/21 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成25年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程 3/21(火) 定員300名 会場コード5C-54
会場 大阪国際会議場
時間 9:25～17:00
申込必着日 2/14(火) (定員に達し次第締切)
受講料 12,960円(消費税含)
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

建築士法にもとづく建築技術講習会 建築設計のためのBIM活用講習会 2/7 CPD3単位

建築設計業務において、コンピュータで仮想の3Dモデルを作りながら設計するBIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)という設計手法が急速に普及しています。本講習会では、実際にBIMを活用している設計事務所や、ソフトウェア、ハードウェア各企業から講師を迎え、メリットや導入方法の解説を行います。

日時 2月7日(火) 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館
内容 建築設計業務におけるBIMの活用体験談、BIMソフトの導入・運用とソフトの最新情報等について、ハードウェア機器説明
定員 80名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員1,000円
後援団体会員2,000円
一般3,000円

大阪府知事指定講習 平成28年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》 2/9 CPD各5単位

本講習会は、既存木造住宅の耐震診断・改修を適切に行える技術者の養成を図ることを目的として実施する講習会です。修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日時 2月9日(木) 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅
定員 各120名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 2/22、3/23 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、講習では建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供します。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程 2/22(水)、3/23(木)
時間 9:00～17:00
会場 大阪府建築健保会館
定員 各回90名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送・窓口申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページからお申込下さい。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

今どきの建築仕事フェス ～建築のいろいろな仕事を知ってもらいたい～ 2/4

建築業界全体の活性化を考え建築を学んでいるがまだ漠然としか将来を考えていない学生に、建築の様々な業種・仕事を体験して貰うことで建築のどの仕事を選ぶかの一助となるよう企画しました。

日時 2月4日(土) 13:00～17:00

会場 大阪市中央区民センター2階ホール
大阪市中央区久太郎町1-2-27
参加費 無料

大阪府ヘリテージマネージャー 第2回ステップアップ講座 大阪府立中之島図書館～歴史と継承～ 2/11 CPD4単位(予定)

本講座は、ヘリテージマネージャー育成講座のステップアッププログラムです。今回は、1974年国の重要文化財の指定を受けた、大阪府立中之島図書館の歴史と耐震補強および修復工事について学びます。

日時 2月11日(土) 13:30～17:30
場所 大阪府立中之島図書館 別館2階 (大阪市北区中之島1-2-10)

内容

13:30～ 中之島図書館見学1(公開部分)
14:00～ 講習「歴史と継承～中之島図書館から考える」
講師 中嶋節子(京都大学教授)
15:30～ 講習「中之島図書館の修復工事」
講師 水口佳之(藤木工店工務所長)
17:00～ 中之島図書館見学2

定員 50名(定員に達し次第締切。但し、大阪府ヘリテージマネージャー育成講座修了者・受講者優先。)

受講料 1,000円(当日徴収します。)

※講座終了後、懇親会を予定。参加希望者は申込してください。(参加費別途必要)

※実施1週間前頃に受講票を送信します。

中大規模木造設計セミナー 2/17 CPD3単位

「公共建築物の木材利用促進法」が2010年に施行され、低層の公共建築物などは原則として木造化、木質化することが義務付けられました。本セミナーでは、昨年改正された文科省の「JIS A 3301 木造校舎の構造設計標準」に基づき、流通材とプレカットを活用することで、意匠設計者でも比較的容易に且つ経済的・合理的に中大規模の木造建築物の設計が行える設計指針を解説します。この指針は、福祉施設、倉庫、事務所など一般用途の施設の設計も対象としています。(本セミナーはDVD講習となります)

主催 (一社)中大規模木造プレカット技術協会
共催 (公社)日本建築士会連合会
(公社)大阪府建築士会

日時 2月17日(金) 13:30～16:45
会場 大阪府建築健保会館
内容 木を見せる空間をつくるための耐防火計画、流通材を活用するための構造計画など

定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 2,000円

第9回建築人賞第一次審査会(公開) 2/18

会報誌「建築人」のGalleryに掲載された建築作品を対象に社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより建築技術の進

展、建築文化の向上に資することを目的として「建築人賞」を実施しています。

「第9回建築人賞」では、前回に引き続き審査委員長・古谷誠章氏のご参加の元第一次審査を公開で実施します。

日時 2月18日(土)
13:00～17:30(開場12:30)
会場 いちょうホール
大阪市中央区本町4-1-13御堂ビル1階
定員 100名(当日先着順申込不要)
入場料 無料

■第9回建築人賞実施概要

主催 公益社団法人大阪府建築士会
審査委員長 古谷誠章
(建築家・早稲田大学教授)

審査対象作品 建築人2016年1月号から12月号までのGalleryに掲載された建築作品

審査方法 (2段階審査・予定)

第一次審査 公開プレゼンテーション
第二次審査 現地確認により選定

表彰(設計者に対して)

建築人賞(賞状と記念盾)
建築人奨励賞(賞状)
※建築主・施工者には感謝状授与

受賞発表 建築人2017年7月号誌面(予定)

建築士の会「みしま野」「北河内」「北摂」共催 立命館大学大阪いばらきキャンパス見学会 3/9 CPD 2単位(予定)

建築士の会「みしま野」の地に、立命館大学がやって来た。2015年、大阪いばらきキャンパスが設置され、多くの学生が茨木市に通っています。大学のキャンパスは、一般的には門や塀が設置された閉鎖的な空間が多いですが、大阪いばらきキャンパスは、茨木市の市民公園や茨木商工会議所が併設されるなど「産官学」が一体化したオープンなキャンパスとなっており、其処には様々な仕掛けがあります。そこで今回は新しい形態の大学キャンパスを大学の施設、設備、防災拠点、更に、企業連携の観点から見学会を開催します。

日時 3月9日(木)
14:30集合 15:30～17:00見学
集合 JR茨木駅東口
ペDESTリアンデッキ2階広場
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
定員 50名(定員に達し次第締切)

無料セミナー「危ない我が家」 3/11 CPD2単位(予定)

より豊かなシルバーライフを実現するために、誰もが快適に暮らし続けることができる住宅のアドバイスをもとめた小冊子「安心・安全・安らぎの家」のセミナーを開催します。

◆第3回「安心・安全・安らぎの家」

日時 3月11日(土) 14:00～16:00
会場 大阪ガスショールームハグミュージアム3F会議室
大阪市西区千代崎3丁目南2-59
最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線
ドーム前千代崎駅

動静レポート

会長動静

- 12/26 熊取町長面談
- 12/27 堤府住宅まちづくり部長訪問
- 1/ 4 建築 15 団体新年交礼会
- 1/ 5 日刊建設工業新聞社新年交礼会
- 1/ 6 岬副町長面談
- 1/10 大阪府収用委員会局長・次長面談
- 1/12 総務企画委員会（連合会）
- 1/14 長野県建築士会交流会
- 1/17 大阪都市景観建築賞表彰式
- 1/18 大阪府収用委員会
正副会長会議、理事会
枚方市避難所被災度判定説明会
- 1/19 正副会長会議（連合会）
- 1/20 理事会（連合会）
- 1/23 住まい情報センタータイアップ委員会
- 1/24 大阪府建築士事務所協会新年交礼会



藤原熊取町長(右)



中口岬副町長(左)



中嶋副会長 田中副会長 堤府住宅まちづくり部長 岡本会長 濱田副会長 上田副会長

運営委員会

堤大阪府住宅まちづくり部長訪問

岡本会長と副会長全員が、12月27日に堤府住宅まちづくり部長を訪問しました。面談では、本会会長の府内43市町村首長訪問が12月末で40を数え、各首長さんからは本会の防災やまちづくり等の社会貢献活動や、会員建築士の委員派遣等に対して高い評価と期待が寄せられており、今後も市町村と連携・協力した活動を積極的に進めていくことをご報告しました。また、女性分科会作成の「安心・安全・安らぎの家」、ヘリテージ分科会作成の「大阪3大城下町めぐりマップ」、建築に特化した監理技術者講習会テキストなど、本会作成の最新オリジナル図書を紹介し、本会活動への理解と協力・支援をお願いしました。

堤部長からは、住まうなら大阪と思える魅力あふれる大阪を創造するための政策を示した「住まうビジョン・大阪」、大阪の今後の方向性を広く世界に発信する「グランドデザイン・大阪」の説明を受け、本会としてもこれら政策の推進に協力を惜しまない旨をお伝えしました。

運営委員会

本年度の建築士登録状況

本会は大阪府の指定登録機関として、二級・木造建築士の登録・閲覧等の業務を、また国の指定登録機関である日本建築士会連合会からの受託により、一級建築士の登録・閲覧等の業務を行っています。平成28年度の一級建築士試験の大阪の

合格者299名のうち182名、二級建築士試験の合格者452名のうち275名、木造建築士試験の合格者28名のうち11名が1月15日現在で登録申請されました。

社会貢献委員会

枚方市避難所の応急危険度判定説明会を開催

枚方市と昨年1月に締結した「大地震における避難所の応急危険度判定に関する協定」に基づき作成した判定実施マニュアルの説明会を1月18日に行いました。説明会には、枚方市から山本施設整備室長及び芝課長代理にご出席いただき、北河内地域で協力いただける40名の判定士の内、19名の判定士が参加されました。枚方市役所への参集は発災後2時間以内となっており、参加者からは、職場等から直接参集し持ち物に不備があった場合の対応、ペアで回る市職員の判定技術レベル、74ヶ所の避難所を回る交通手段、判定士と認識できる腕章の配布などについての質疑応答を行い、説明会は1時間程度で終了しました。

本会判定士の活動に対して枚方市からは大きな期待をいただいております、平時における連絡訓練の実施などを通じ、市との連携を深める方針です。

建築表彰委員会

平成28年度大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）表彰式

平成28年度大阪都市景観建築賞の表彰式を1月17日に大阪府庁本館正庁の間で行いました。

知事賞「シマノ本社工場」、大阪市長賞「日本生命本店ビル群」、審査員特別賞「立命館大学大阪いばらきキャンパス」、緑化賞「さかい利品の杜」、建築サイン・アート賞「船場センタービルのリニューアル」及び奨励賞5作品が受賞されました。審査委員長の久近畿大学教授、堤府住宅まちづくり部長、田中副市長、岡本会長から受賞の祝辞等が述べられました。審査講評等の詳細は本誌18～21ページ、及びホームページをご覧ください。

第6回オープンナガヤ大阪2016と建築士会の取り組み

日程：平成28年11月13日（日）14：00～17：00 参加者：36名

昨年第6回目となるオープンナガヤ大阪が11月12・13日と開催された。本会としては、これまでも毎回、景観整備機構として後援をしてきたが、今回は一歩踏み込んで、独自の連携イベント「大阪長屋の魅力を訪ねて～講演会&まち歩きin阿倍野」を大阪市南地域会と合同で企画した。

まず、オープンナガヤ全体を紹介すると、「暮らしびらき」をテーマに大阪長屋と長屋暮らしの魅力を発信し、保全活用を進めるということが狙いであり、前回28会場30数戸から、今回は41会場、50戸以上オープンされ、大阪市内9区（北、福島、中央、生野、西成、阿倍野、住吉、住之江、平野）と八尾、堺に広がった。そして来場者も述べて3,200人を超える規模となった。店舗（飲食、物販）、アトリエ、事務所、レンタルスペースそして住居という会場で、内覧、相談会、講演、漫談、落語、図面や作品の展示、

まち歩きなど、会場ごとに工夫を凝らした多様なイベントが開催された。

11月13日午後の建築士会のイベントには、定員30名のところ、会員17名、会員外19名、計36名の参加を得ることができた。オープンナガヤの他のイベントは無料であり、このイベントのみが参加費を取るため、参加者が集まらないのではと危惧したにもかかわらず盛況だったのは、ひとえに企画が当たったといっていだろう。まちづくりというミッションを掲げた不動産業の小山隆輝氏の講演と、その案内で実際に長屋を見て回るとい、これまでに無い斬新で魅力的な内容に吸引力があったと言える。

講演をまとめると、「阿倍野の昭和町、西田辺を中心としたエリア（まち）の価値を上げ、『上質な下町』にしていく、そのためには、このまちの宝物である長屋を上手く活用し、大家さんとセンスの良い入居希望者を結びつける。ただ単に

藤田 忍（まちづくり分科会委員）



貸せば良い、儲かれば良いということではない。さらっと光る人が増えることがまちづくりである」となる。

講演後は、小山氏が手がけた14事例（オープンナガヤ会場は7事例）を見て回った。感想では「新しい発見」「参加者が熱心に聴講、見学していたことが印象的」「感銘を受けた」とあるように、参加者数と内容ともに成功した。建築士のまちづくりが新しい世界に一歩踏み出したと言って良い。



講演会 in レンタルスペース阿倍野長屋

監理技術者講習を受講して

筆者は、建設業法に基づく監理技術者ではありませんが、昨年11月、大阪府建築士会が主催する監理技術者講習を受講しました。監理技術者講習を受講したきっかけは、毎月「日本建築士会連合会」が発行する会報「建築士」に同封されている同講習会の案内資料に、講習会用のテキストは建築に重点をおいて編集されているため、監理技術者をはじめ一般の建築技術者にも役立つと紹介されていたことでした。

講習会のテキストは、①建設業界の現状、②監理技術者制度と責務、③契約制度、④施工計画と施工管理、⑤品質管理、⑥安全衛生管理、⑦環境管理及び⑧最新技術と材料の動向の8章で構成されており、その内容は現役のゼネコン技術者や

大学教授により執筆されたものだけあって、基本的事項、関連法制度の改正状況、最新技術・材料等の要点が的確に取りまとめられています。

今回、監理技術者講習を受講して、建設業就業者数の推移、高齢化・労働生産性、技能労働者の不足状況、女性の活躍、関連法制度の改正状況、外国人の活用等の建設業界の最新動向を、また、監理技術者の配置に関するトラブル事例、品質事故・トラブル事例、労働災害・第三者災害・トラブル事例等の豊富なトラブル事例を、さらには、躯体・仕上げ工事等の施工合理化・品質向上技術、環境技術及び情報化施工技術等、一般に公表されている資料だけでは修得が難しい事項についての知識を

竹中隆美（会員）



得ることができました。

監理技術者の資格で工事に携わる場合、本講習を5年以内ごとに修了している必要がありますが、講習内容は建築関係の設計・工事監理等の業務に従事されており、監理技術者の資格を必要とされていない建築士の方々にも大いに参考になると思われますので、受講をお奨めします。



住めば誰かが輝くまち泉大津 ～なんでも近いでええところやで～

文 木岡 勉

はじめに

本市は、東経二三五度二四分、北緯三四度三〇分、大阪府の南部に位置し、北部・東部は高石市と和泉市、南部は大津川を境として忠岡町と隣接しています。

市内全域が平坦で、面積は一三、四三km²（二八年六月二九日現在）と非常にコンパクトな市域であり、全域が市街化区域となつています。人口は平成一七（二〇〇五）年をピークに減少傾向に転じ、現在七五、五六八人（二八年二月三〇日現在）となっています。

市の沿革

明治八年宇多大津村、下条大津村が合併し「大津村」と改称しました。その後大正四年四月一日町制施行し「大津町」と改称し、昭和一七年四月一日大阪府では七番目の市制施行し「泉大津市」となりました。市制施行にあたり、すでに滋賀県に大津市があることから、大津の頭に和泉国の「泉」を置き「泉大津市」としたものです。

市の特徴

大都市部からも比較的近く、平坦で市域が小さいため、市内各地へのアクセスが容易である利点に加え、南海本線高架化や都市計画道路南海中央線（森地区）が平成二六年三月に供用開始し、府道富田林泉大津線から高石市までが繋がったことにより、人や車の流れがスムーズになり生活の利便性が高まっています。また本市は地場産業である毛布の生産をはじめ

めとする繊維産業や港湾関連産業を中心として発展してきました。近年、産業構造の変化により、工場跡地の活用や農地の転用などで住宅地としての土地利用が進んでいます。

これまでの取り組み

これまでの都市計画等に関わる主な取り組みとしては、昭和三八年第二阪和国道の建設計画が立てられたことに伴い、本市においても市域の特性を生かし、都市としての基盤を確立し、その沿道の土地を整備する必要上、昭和四〇年から豊中地区二二haを、昭和五一年から板原地区三二haの区画整理事業が施行されました。

日常生活や経済活動での利便性を向上させるため、昭和四〇年の第一次から平成二六年の第一八次まで住居表示整備事業を実施しており、現在、本市の住居表示実施率は約九一％（ただし、住居表示対象予定区域外は除きます。）となっています。

下水道の普及状況ですが、整備面積では七六、〇％、整備人口では九六、六％、処理人口では九六、二％、水洗化人口では八九、三％となっております。しており他市町村に比べ普及率が高い状況にあります。

市街地の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図るため泉大津駅東地区第一種市街地再開発事業及び松之浜駅東地区第一種市街地再開発事業を実施しています。特に泉大津駅東地区の再開発により建

築された二棟のアルザタワーが市のシンボリックな建物となっており、市の玄関口にふさわしい駅前の様相を呈しています。

南海本線（泉大津市）連続立体交差事業は、平成二四年八月四日の始発より下り線も高架化が完了したことにより、両線が高架化となり、踏切八箇所が除去されたことで安全でスムーズな通行に寄与しています。関連側道の供用開始は平成二九年三月末頃を予定しており、全ての工事は平成二九年夏頃に完了する見込みです。

主な住宅施策

平成二七年三月に「第四次泉大津市総合計画」（住めば誰かが輝くまち泉大津 ～なんでも近いでええところやで～）が策定され、その中で基本計画の七つの分野別計画における都市計画分野の政策（コンパクトで居心地のよいまちづくり）の基本施策の一つである「住環境」の施策の展開方向の一つとして掲げている「安全・安心な住まいづくりの推進」等に基づき、住宅施策として次のような取り組みを展開しています。

民間住宅耐震促進事業については、大阪府の補助事業に合わせ、耐震診断、設計、改修補助制度を設け昭和五六年五月以前の木造住宅の耐震化を促進しています。

定住促進住宅リフォーム助成制度は、市民が快適に住み続けられる住まいづくりや安全・安心な住まいづくりの促進を図ることを目的として、住宅リフォームを行う工事の経費の一

部を助成しています。

三世代同居等促進住宅リフォーム助成制度は、若い世代の転入による三世代同居、近居を促進することで、若い世代が子どもを安心して産み育てられ、高齢者の孤独を無くし生き生きと安心して暮らせる住環境を創出することに加え、空家の有効活用を含めた中古住宅の流通促進を図ることで地域の活性化を実現させるとともに人口減少に歯止めをかけることを目的として、住宅リフォームを行う工事の経費の一部を助成しています。

転入促進賃貸住宅家賃助成制度は、UR（独立行政法人都市再生機構）が泉大津市内に保有するUR団地で実施しているURの家賃割引制度に加え、市が家賃助成を行うことで、URと市が連携し若年世代の転入を促進しようという取り組みです。

空家対策の取り組みについては、平成二七年五月の空家対策特別措置法の完全施行以来、本市では、老朽危険空家の取組みとして、市民や市関係部局からの通報により、現場確認し放置することが危険と判断する場合には所有者の特定を行い、文書等で適正管理を促しています。今後は、全市域について空家実態調査を実施し、より積極的に空家対策に取り組むことで安全安心な住環境の創出を目指したいと考えています。

市営住宅については、現在、団地数は七団地で、管理戸数は三二一戸です。木造平屋建てで

あつた河原町市営住宅を建替えし、平成二六年度に管理開始したところですが、まだ木造の団地が一団地あり、この木造団地を含め三団地については建替え、二団地が長寿命化を図る方針で、一団地が福祉型借上住宅となつていきます。既存住宅については、いずれも老朽化が課題となつていますが、現在策定中の公共施設適正配置基本計画を踏まえながら、計画的な維持管理に努め入居者が安心して暮らすことができる住環境を提供したいと考えています。

住宅施策における課題

民間住宅耐震促進事業では、市ホームページ、広報紙をはじめ自治会での回覧による周知などにより耐震診断においては相当な実績が出ていますが、設計、改修に繋がらないことが課題となつています。これは改修には多額の自己負担を要することが大きな要因と考えていますが、今後いかに耐震改修することが大切かという意識の醸成を図る必要があると考えています。

平成二八年度から創設した三世代同居等促進住宅リフォーム助成制度については、制度の目的は誇れるものと考えていますが、様々な要素を目的に盛り込んだことにより、結果的に制度の対象者の条件が狭くなり実績があまり出ていないという課題があります。当該制



河原町市営住宅



寿市営住宅

度の詳細は以下のとおりです。

本助成制度は、若年世代の転入による親世帯との同居・近居を促進することで、子どもを安心して産み育てられ、又高齢者も安心して暮らすことができる住環境を創出すること、空家の有効活用を含めた中古住宅の流通促進を図ることにより、地域の活性化を図ることなどを目的として、住宅リフォーム工事費の一部を助成する制度です。

○同居とは親世帯と子世帯が同一の住宅に居住すること

○近居とは親世帯と子世帯が共に泉大津市内に居住すること

助成の要件

○助成対象者

次の要件を全て満たす方

・市内に住宅を自ら所有し、居住する親又は子、或いは市内に住宅を自ら所有し、居住予定の子であること

・申請日に親が継続して三年以上市内に居住していること

・申請年度の四月一日から申請日に、子世帯が継続して一年以上市外に居住していたこと又は引き続き市外に居住しているがリフォーム工事完了後転入すること

・子世帯が、平成二八年四月一日以降、市内に中古住宅を購入し同居・近居又は親が居住する住宅に転入により同居し、世帯全員が居住している或いは居住予定であること

・親子世帯の構成員の全員が市町村税を滞納していないこと

○助成対象住宅

・個人住宅、併用住宅又は共同住宅

・申請時に適法に建築がされ、建築後五年を経過し、リフォーム工事を実施する住宅又は、泉大津市木造住宅耐震改修補助金交付要綱に基づく耐震改修工事と同時に同一棟でリフォーム工事を実施する住宅

○助成対象工事

・リフォーム工事に対する費用が二〇万円（税抜）以上であること

○助成金額（一、〇〇〇円未満の端数は切り捨てとなります。）

・リフォーム工事に要する費用の一〇分の一に相当する額（上限二〇万円）

・耐震改修と併用する場合は費用の一〇分の二に相当する額（上限三〇万円）

当該制度の助成実績としては、平成二八年二月末現在で一件のみとなっており、実績が少ない理由としては、三世代同居・近居だけでも最近では珍しい状況である上に、同時に若い世代の転入促進を制度の目的としているために、先に示したように特に助成対象者の要件が厳しくなり過ぎたことにより、結果的に制度の要件を満たす対象者が限定されてしまい実績に繋がらなかったものと考えています。

今後制度の見直しも含め検討する必要があると考えています。

市営住宅施策については、平成二六年度から管理開始した河原町市営住宅以外は、いずれも老朽化が激しく建替え、長寿命化に向け計画的に取り組む必要があります。

建替え方針が出ている団地の内、特に優先すべき寿市営住宅は、計画ではすでに建替え時期に達しています。当該住宅は現地での建替えは困難であるため、二田市営住宅用地での二田市営住宅との集約建替えを検討する必要がありますが、二田市営住宅は、計画では平成五二年以降の建替え方針が出てい

ることなど計画と実態に乖離が出ており計画自体の見直しを行う必要に迫られています。また建替えには多額の財政出動が予想されますが、本市の財政状況を勘案し民間資金を活用するなどの整備手法の可能性や将来的には民間住宅借上げ制度の創設なども検討する必要がありますと考えています。

まとめ

先に触れたように本市においても平成一七年以降人口減少に転じており、人口減少に歯止めをかけるべく種々の住宅施策を展開していますが、住宅施策だけで転入促進を図ることは限界があり、良好な子育て環境の提供や充実した教育前教育等の福祉施策や教育施策など市を挙げて様々な施策を展開する必要がありますと痛感しています。

今後も住宅施策は全力で取り組んでいくことは勿論のこと、他部局との連携を密にして全市を挙げて取り組むだけでなく、外部に向けて市の施策を発信していきたいと考えています。

木岡 勉

泉大津市都市政策部参事兼まちづくり政策課長
一九五六年 岸和田市生まれ
一九八〇年 泉大津市へ入庁
税務、福祉、人事、人権行政等に携わる
二〇一四年 現職



第9回建築人賞 第一次審査会（公開）

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人 大阪府建築士会では
会誌『建築人』の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
「建築人賞」を実施しています。
「第9回建築人賞」では、審査委員長・古谷誠章氏のご参加の元
第一次審査を公開で実施することとしました。
皆様ご参加の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

審査委員長 古谷 誠章（早稲田大学教授）



1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～87年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ ハ木佐千子とスタジオナスカ
（現NASCA）共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授
2014年～ 第6回建築人賞より審査委員長就任

■「第9回建築人賞」第一次審査会開催について

日時：平成 29 年 2 月 18 日（土）
13 時 00 分～17 時 30 分（開場 12 時 30 分）
会場：いちょうホール
大阪市中央区本町 4-1-13 御堂ビル 1 階
定員：100 名（当日先着順申込不要、入場無料）

■「第9回建築人賞」実施概要について

主催：公益社団法人大阪府建築士会
審査委員長：古谷誠章（建築家・早稲田大学教授）
審査対象作品：『建築人』2016 年 1 月号から 12 月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

審査方法（2段階審査）：

第一次審査 公開プレゼンテーションにより選定

第二次審査 現地確認により選定

表彰（設計者に対して）：

建築人賞（賞状と記念盾）、建築人奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には感謝状授与

受賞発表：『建築人』2017 年 7 月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

建築人賞 受賞作

第1回建築人賞（2009年）

伊根町コミュニティセンター
建築主／伊根町 設計／浦辺設計 施工／大林・金下共同企業体
日亜化学工業(株) 本社厚生棟
建築主／日亜化学工業株式会社 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
加美の山荘
設計／井上久実設計室 施工／あかい工房
Wajima 十番丁
建築主／和島興産株式会社 設計／日建設 施工／大林組・小池組
共同企業体
株式会社虎屋 京都工場
建築主／株式会社 虎屋 設計／KAJIMA DESIGN 施工／鹿島建設

第2回建築人賞（2010年）

□建築人賞
清荒神清澄寺史料館
建築主／宗教法人 清荒神清澄寺 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
小檜のある家
設計／マニエラ建築設計事務所 施工／西友建設
□建築人賞奨励賞
高槻地域生活総合支援センター ぷれいすBe
建築主／社会福祉法人 北摂杉の子会 設計／二井清治建築研究所
施工／安部工務店
昭和町の家
設計／藤原・室 建築設計事務所 施工／大種工務店

第3回建築人賞（2011年）

□建築人賞
アシックス本社東館
建築主／株式会社 アシックス 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
ARK
建築主／楠戸芳弘 設計／岸上勝彦＋明建築工作舎 施工／城善建設
□建築人賞奨励賞
千里中央プライムステージ
建築主／新星和不動産株式会社・三洋ホームズ株式会社
設計／KAJIMA DESIGN 施工／鹿島建設
森のアトリエ
設計／コンパス建築工房 施工／伊田工務店

第4回建築人賞（2012年）

□建築人賞
神戸国際中学校・高等学校河野記念アルモニホール
建築主／学校法人 睦学園 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
苦楽園の家
建築主／松井龍 設計／二宮俊一郎＋諸留智子一級建築士事務所エヌ
アールエム 施工／創建
□建築人賞奨励賞
児童養護施設 三ヶ山学園
建築主／社会福祉法人 三ヶ山学園 設計／野村充建築設計事務所
施工／東亜建設工業
西宮神社 祈禱殿
建築主／宗教法人 西宮神社 設計／大林組 大阪本店一級建築士事務所
施工／大林組
おおい町里山文化交流センター
建築主／おおい町 設計／徳岡設計 施工／こんどう・日登建設共同企業体
路地のある寺内町の家
設計／NEO GEO 横関正人＋三木万貴子 施工／山本建築

第5回建築人賞（2013年）

□建築人賞
大正製薬株式会社 関西支店
建築主／大正製薬株式会社 設計者／竹中工務店 施工者／竹中工務店
楡の木テラス
設計者／石井良平建築研究所 施工者／林建設
□建築人賞奨励賞
株式会社小松製作所 大阪工場 大阪テクニカルセンタ
建築主／株式会社 小松製作所 設計者／KAJIMA DESIGN
施工者／鹿島・前田建設工業・間組共同企業体
柊木の家
設計者／木原千利設計工房 施工者／SEEDS・CASA

第6回建築人賞（2014年）

□建築人賞
日本圧着端子製造株式会社
建築主／日本圧着端子製造株式会社 設計者／Atelier KISHISHITA＋
Man'go design 施工者／鹿島建設 関西支店
今井町の家
設計者／NEO GEO 横関正人＋横関万貴子 施工者／岩鶴工務店
□建築人賞奨励賞
GLA 近畿会館
建築主／宗教法人 GLA 設計者／岸 和郎＋K.ASSOCIATES/Architectes
施工者／藤木工務店 大阪本店
深谷山荘
設計者／マニエラ建築設計事務所 施工者／笠谷工務店

第7回建築人賞（2015年）

□建築人賞
三井ガーデンホテル京都新町 別邸
建築主／株式会社 大丸松坂屋百貨店 基本構想者／アーキテクツオフィス
設計者／竹中工務店 内装：竹中工務店＋三井デザインテック
レストラン：永山祐子建築設計 庭園：荻野寿也景観設計
施工者／竹中工務店
八千代の家
設計者／川添純一郎建築設計事務所 施工者／ビームス コンストラクション
□建築人賞奨励賞
風の子保育園
建築主／社会福祉法人 水仙福祉会 設計者／井上久実設計室
施工者／日本建設

蔵の住まい
設計者／吉村篤一＋建築環境研究所 施工者／片山工務店

□建築人賞佳作
かもしか荘
建築主／甲賀市 設計者／徳岡設計 施工者／奥田工務店

外市秀裳苑ビル
建築主／外市株式会社 設計者／竹中工務店 施工者／竹中工務店

夙川の家
設計者／マニエラ建築設計事務所 施工者／笠谷工務店

野生と和の家
設計者／木原千利設計工房 施工者／エス・エー・シー

第8回建築人賞（2016年）

□建築人賞
竹中大工道具館 新館
建築主／公益財団法人 竹中大工道具館 設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

大和棟の家
設計／岩田章吾建築設計事務所 施工／和田建設

□建築人賞奨励賞
西光寺
建築主／宗教法人 西光寺 設計／コンパス建築工房 施工／日本建設

ENDO堺筋ビル
建築主／株式会社 遠藤照明 設計／日建設（基本設計・意図伝達）・
大成建設 施工／大成建設

大野台の家
設計／横関正人＋横関万貴子／NEO GEO 施工／アール・ワン

□建築人賞佳作
チュチュアンナグループ本社ビル
建築主／株式会社 チュチュアンナ 設計／安井建築設計事務所
施工／鴻池組

認定こども園 せんりひじり幼稚園 ひじりにじいろ保育園
建築主／学校法人 ひじり学園 設計／アバクス・アーキテクツ
施工／松井建設

LIGHT SCREEN
設計／マニエラ建築設計事務所 施工／梅田コーポレーション

Rich Communication House
設計／HTAデザイン事務所 施工／西友建設



江戸時代から続く製塩会社の独身寮。現在も眼前の瀬戸内の海水から浸透膜により製塩している。広大な塩田が広がっていたこの地方は焼杉の黒い外壁と真っ白な漆喰壁が特徴で、その原風景をデザインモチーフとした。敷地は瀬戸内海へ向かって緩やかに傾斜しており、その斜面に沿うように勾配屋根を配置し、また巨大になりがちなビルを細かく分節することによって既存瀬戸内の街並み風景への配慮を行った。分節部分には寮生の溜まり場といえる共用ロビーをはさむとともに展望デッキを配置した。この展望デッキよりかつてこの地方で盛んに行われ、この地域の人々の生活を支えていた天日製塩に思いをはせたいものである。(川北)

実施設計：ナйкаアーキツ
建 築 主：ナйка塩業株式会社
所 在 地：岡山県玉野市
用 途：寄宿舎
竣 工：2016.08
構造規模：RC造・S造
地上2階
敷地面積：3186.92㎡
建築面積：551.17㎡
延床面積：938.65㎡
写 真：中桐暢良



敷地は神戸市塩屋に位置し、淡路島や明石大橋を眺望できる高台の旗竿形状である。竿の部分アプローチ・駐車スペースとし、旗の部分に建物を配置した。眺めのよい西側を開放し、隣家が迫る東・南・北側を閉じた構成とした。1階は、玄関に入ると通り土間でつながった主寝室・子供室・洗面・浴室の独立した部屋を配置し、それぞれ西側に向って開放された開口部から、採光・通風・眺めを確保した。階段を上った2階は、LDK・和室が、スキップフロアでそれぞれ領域をつくり、南側ハイサイトライトからの光が、勾配天井をなめながら一室空間を照らす空間が広がる。要望であった屋上からの瀬戸内の眺望は絶景である。

構造監理：天野一級建築
構造設計事務所
所在地：兵庫県姫路市
用途：専用住宅
竣工：2016.09
構造規模：木造(在来工法)
地上2階
敷地面積：149.62㎡
建築面積：48.36㎡
延床面積：78.45㎡
写真：福澤昭嘉

匠の巧

株式会社陶額堂

陶とガラスの空間美術

文 丸子勇人・河合哲夫

■陶とガラス

長浜駅から車で二〇分ほどの山の麓にある陶額堂の制作工房を訪れた。陶額堂は、建築空間に付随するアートを構想・制作・設置する美術集団であり、京都にデザインなどの計画拠点を置き、滋賀県長浜市に陶とガラスの工房を構える。

陶とガラスにゾーン分けされた制作工房では、ガラス工房三人、陶房二人の制作スタッフが在籍し作品作りに携わっている。取材はガラスの工房から始まった。そこには大小の窯が配置される中、特に大きな二つの窯が目についた。ひとつの窯の中には幅一〇〇㎝長さ二五mほどの短冊状のガラスが隙間無く整列して置かれ、それらを加熱することで二五m角の板状のガラスをつくる過程と説明を受ける。制作スタッフが大判の高透過ガラスを手作業で丁寧な割くことで、そのひとつひとつの短冊は不均質で豊かな表情をつくり、その集積がさらに奥行のある美しさを形成していたことがとても印象的であった。もう一方の窯の中では、それらを八〇〇〜九〇〇℃に加熱した後の徐冷が行われていた。加熱により一体化したガラスが一〇日間かけてゆっくりと冷まされることで、ひずみのない頑丈なガラスへと変性するという、品質を確保するために非常に重要な工程であった。同様のものを三〇枚程度、約半年間かけて制作し、美術館の工事にて設置する予定だそう。一般的なアート作品には稀有な建築的なスケールの感じられる仕事である。

また、焼物では、京都迎賓館での作品をゼ



ひ紹介したい。桐の間から藤の間をつなぐ空間の床を構成する厚さ約三〇㎝、四七五㎝角サイズの陶板は、一枚一枚が絶妙なむくりを有し、薄暗い空間の中で、そこにあるわずかな光をすべて吸収し発散するかのごとくしなやかで深淵な表情をなしていた。部屋をつなぐ空間にもかかわらず、その陶板がもつ自律的な仕上がりは最も印象的な空間のひとつとして、私がかつて訪れた時の記憶に強く刻まれていたのだが、今回の取材を通して初めてそれが陶額堂の作品であることを知ることになった。

これらガラスと陶という二つの素材は、陶額堂の作品の基調となっている。建材として馴

染み深く、退色しない半永久的な性質をもつこれらの素材は、陶額堂が志野陶石の美術部門から創設されたことにも由来するのだが、それは「時代を超えて存在する質を表現したい」という陶額堂の想いに強く結びつく。そして常に建築的アプローチを主題とする美術集団としての仕事に繋がっているのである。

■設計者との協働による空間美術

二〇世紀初頭、マルセル・デュシャンは既成の男性用便器に「FOUNTAIN」とサインを入れただけの作品を、「泉」と題して遺した。この作品は「芸術とは美しいもの」という既成の概念を覆し、鑑賞する側の捉え方を重視した作品の存在意義を示し、美術史に大きな衝撃を与えた。芸術の概念を「物質的な工芸」から「知的な解釈」に変え、アートの枠組みを大きく拡大し、次々と新しいジャンルとして現代美術を生み出すエポックを画したといわれている。

そうした多様化するアートを巡る背景において、「建築と共にあつて美しい作品を目指している」という代表取締役の宮廻氏の言葉が表すように、陶額堂はアートについて



ガラス制作風景。ガラスの小口を手作業で研ぎ込んでいく。

て、その作品を体験する人の感性に働きかける質にこだわり、そしてその姿勢を貫いている。そのために、陶額堂は、単にアート作品をプロデュースするだけの会社とは別物であり、空間の中に単純に設置される作品を制作する美術家とも異なる。また、タイルやガラスといった建築材料としての素材を提案するメーカーでもない。彼らは、作品の質を追求する姿勢をもとに、発注者とともに、各々の目指す空間や建物のコンセプトを共有し、対話の中を通じて作品を形づくっていく「協働」を重視している。

その協働というプロセスを踏むことにより、制作された陶やガラスの作品は、建物や空間に対し、主従関係なくその一部となるのである。設計者の想いを汲み取っただけではない、むしろ洗練、敷衍化したものとして、作品は現実空間に落とし込まれる。自律したアートとは違う、しかしもちろん建築仕上の素材でもない彼らの作品は、アートの枠組みを超え、その領域はアートと建築を横断している。日本では、ここ数年、コモンスズ概念、つまり他者と「共有する」ことに新しい価値を据えた建築への取り組みが模索されているが、陶額堂の作品づくりはそうした今日的な動きの中にフィットしているのだ。

また、作品ごとに取り組み方は様々で、設計者の言語から着想することもあれば、打ち合わせの中で設計者のスケッチの上にスケッチを重ねていくといった対話の中で発想することもあるという。プロジェクトごとに毎回やり方を変えることを是とする、その柔軟かつ意欲的なスタンスはとても魅力的であると感じた。

■「工房が関数になる」

陶額堂の更なる魅力は工房を持つことで

あると取材を通して確信した。

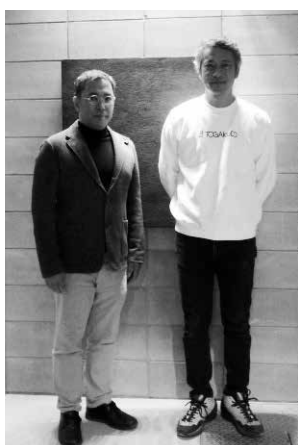
今回取材の対応をしてくれた代表取締役の宮廻氏と長澤氏はそれぞれ計画、制作担当として役割付けられ、その分担は作品に良い影響を与えていると宮廻氏は語る。

デザインののみを行い専門工場に制作を外注したり、アーティストの作品を提案したりする一般的なアートプロデュース会社とは違い、陶額堂は自ら設計、デザインしたものを、自らがもつ工房で制作を行うのである。

先述の通り、陶額堂の制作工房は滋賀県長浜市郊外の静かな森に囲まれた地にある。設計拠点の京都とはある程度の距離がある。「それぞれの設計と工房の互いの領域を守りながら、対話を進める」という宮廻氏の言葉は興味深く、たとえば、あるデザインを工房に依頼するときは制作方法まで事細かに指示を行うことを避け、工房側に委ねるという。作り手側の技術を活かしたもののづくりが行われ、時に設計側へフィードバックされ、分離発注では得られないスピード感のある対話の中で、より作品が洗練され、品質も確保された優れた作品が次々と生まれている。つまり、それぞれに余白を残した仕事の進め方を行うことで、デザインコンシヤスになることを意識的に避けているのである。宮廻氏は「工房があることが必然的に競争力」と語り、「デザイン」と「ものづくり」の両側面のメリットを最大限に活かすことで、「時代を超えて存在する質を表現」していると感じた。宮廻氏の言うとおり、「工房が関数になっている」のだ。

また、制作担当の長澤氏は「毎回異なる方法で作品づくりに取り組んでいる」という。通常であれば慣れ親しんだ作り方を繰り返し深めることで、その作家性や品質を確保するものである。しかし、「デザイン」とも

のづくり」の確かな連携という土台こそが、常に新しい作り方に挑戦するという姿勢を許容している、ということも言うまでもない。空間もアートも、それを体験する人に語り、主張し、働きかける自律した存在である。空間が、アートを納める器であるときもあれば、アートが空間を引き立てるアクセサリのようなものであつたりもする。陶額堂の仕事もまた、それぞれのプロジェクトにおいて、様々な役割を担っているだろう。しかし、全てのプロジェクトに貫いて伝わってくるものは、発注者との間で形成された信頼関係によつて生み出される、空間とアートにおけるその場所のコンセプトに相応しい、互いに欠かすことのできないバランスによる緊張感のようなものであつた。陶額堂の仕事とは、建築、ファインアート、仕上素材のいずれでもないと同時にその全てでもある、固有の分野とさえいえるものかもしれない。プロジェクトで協働できる機会を得たいと強く感じた。



代表取締役の宮廻正広氏と長澤和仁氏



TOGAKUDO

株式会社 陶額堂

本社 604-8101

京都市中京区御池通柳馬場南西
角柳八幡町65 京都朝日ビル7F

工房 526-0231

滋賀県長浜市北池町27-2

PHONE 075-222-0282

FAX 075-256-4653

なんば駅前が「ひろば」になる。楽しそうだと思いませんか？そのための社会実験が昨年11月に行われました。ロンドンでも四周が道路で囲まれていたトラファルガースクエアが長年の議論を経て広場に生まれ変わったように、大阪なんばでも実現する日が遠くないのかもしれません。南海電鉄の西川孝彦さんにご紹介いただきました。

「なんばひろば改造計画」始動 なんば駅前道路空間の再編を目指して

西川 孝彦

南海電気鉄道株式会社プロジェクト推進室難波開発部長。南海なんばターミナルでの新ビル建設を担当する傍ら、平成20年よりなんば駅前広場の空間再編をめざし、地域のステークホルダーとまちづくりに取り組んでいる。

昨年の一月一日からの三日間、南海なんば駅前の風景が一変した。突如として道路やタクシープールがひと中心の空間に変身した社会実験「なんばひろば改造計画」が行われ多くの人がこの公共空間を訪れそして楽しんだ。

「ひろば」って？

「ひろば」という言葉を聞いた時、人によって色々なイメージが浮かぶと思われる。私の場合、公園の中の小さな子ども遊び場がまず浮かぶ。一方駅前広場、交通広場となると大きな駅でのバスやタクシ乗場のある交通面での機能的な空間となる。また新しくできたビルの敷地内には多目的広場というものもある。建築士である読者の皆さんになじみのある都市計画で定められたりする公共性の高い（商売をしちやいけな）空間である。さて今回のテーマであるなんばひろばであるが、この広場がどのような空間でどのような将来を目指しているのか、今行われた社会実験の様子を中心にお話しさせていただく。

駅前空間なんとかなりませんか

はじめは八年前、駅前空間に面する商店会の声掛けから始まった。「駅前広場となんさん通りがホコ天になったら街が活性化すると思うけれど、皆さんで一緒に取り組みましょう」地域の会館に集まった商店街や町会、そして企業の出席者に商店会の会長さんがそう呼びかけた。平成二〇年と言えばキタではうめきたや阪急百貨店の建替え、阿倍野ではハルカスや再開発事業などの計画が実現に向かって動いているときであり、ミナミの危機感出席者の共通認識でした。協

議会を立ち上げ勉強会を始めたもののゴールへの道筋が全く分らず、徐々に「これは無理か」という雰囲気は漂いはじめた平成二四年二月に「大阪府都市魅力創造戦略会議」において橋爪紳也特別顧問が、なんば駅前広場空間をワールドクラスの広場空間にしてはという私案を提案された。その後グランドデザイン大阪にも「なんば駅前のみどり化」として取り上げられたことから、地元協議会はまちづくり構想作成、関係者アンケート、シンポジウムを立て続けに実施し、機運を一気に盛り上げていった。そして平成二七年からは官民一体となつて、この駅前の空間の将来像を検討する会議体が出来上がった。今回報告する社会実験もこの検討会にて決めた将来に向けての布石であったわけです。

どのような空間をつくるのか

さて社会実験を語る前に、将来この空間をどうつくるのかという青写真をまずお話ししておかなければならない。社会実験はそれにできるだけ近い状況をつくり市民からの評価や周辺交通への影響を見極めるのが大きな目的となる。この将来像については前述の官民協同の検討会にて議論されているが、紙面の関係上ここではそのキーワードを二つ上げさせていただき皆さんとイメージ共有できればと思う。

- ① 憩い・くつろぎの空間 この空間の普段の顔はこれであり、まちに來た人が自由にこの空間でくつろいでもらえる。ひとのためのオープンスペースをつくる。
- ② 情報発信機能 観光に関する情報がインフォメーションで得られ、この場所を起点に関西一円に人が繰り出していく。

ここで再び社会実験の企画段階に話は戻りますが、まずやらなければならないことは、普段は車のための空間を人のための空間に変えること（面積確保）と、生まれた空間と既存エリアとの一体化である。前者はタクシ乗り場とタクシプールを別の場所に移動していただくことで面積を確保し、後者は駅前広場を通過する道路を一部閉鎖し、高島屋のある南海ターミナルビルと一体化して活用できるようにした。広場単独でなく広場が周辺地域と有機的につながっていることは空間づくりの上で重要な視点である。次にその空間をどう作り込むのかだが、我々がこだわったのは「上質感」である。この場所は閑空からやってきた人が初めて大阪と出会う場所であるだけに、都市としての品格がこの空間からは感じられるものにしたい。今回の実験も当日設置するテーブルやイスをはじめ、カフェのしつらえやそのメニューにいたるまで上質感にこだわった。目指したのはヨーロッパの都市の広場のようにオシャレにお茶を飲みながら空間そのものを楽しんでもらうことである。またターミナルビル側の車道空間にウッドデッキを敷設することで非日常な空間をつくり、人をこの空間に誘いこむ役割も担わせた。これが当日大きな効果をもたらすこととなる。

社会実験スタート

二月から一月までの企画・準備及び関係者調整では多くのクリアしなければならない課題があったものの、最終的には多くのみなさんからご理解をえることができた。社会実験の実施主体であるなんば駅周辺道路空間再編社会実験実行委員会（地元協議会、大阪商工会議所、大



夜間の様子（屋外シネマ）



休憩スペース

阪府、大阪市）の事務局メンバーと、まちづくりのお手伝いをしていただいている(有)ハートビートプランの粘り強い交渉のおかげで、ようやく社会実験ができる環境が一月初旬に整った。前日の一日一六時から道路の通行をストップさせタクシー乗り場等も移転してもらい、ウッドデッキや各種設備のセッティングが急ピッチで進められ、一夜にしてならば駅前空間が生まれ変わった。そして一三時からのオープニングセレモニーでは、吉村大阪市長はじめ関係団体のトップが顔をそろえ、大阪締めとともに高らかに社会実験の開催が宣言された。式典参加者のネームバリューもありこの模様は多くのテレビ局の夕方のニュースで取り上げられることになったのだが、ならばのあの駅前空間が人の空間へと生まれ変わったことのインパクトの大きさがニュースバリューとして評価されたのではないだろうか。社会実験の三日間、将来の空間の使い方を見据えて様々な可能性にチャレンジをした。初日のプログラムは「芦原橋アップマーケット」に出店いただき、市民（店主）と市民（お客）が交流する空間をつくった。二日目はJCOMさんの協力によりステージイベントを実施、夜にはシネマを上映した。最終日はクボタさんに企業PRイベントを実施してもらい、この場所の商品価値についての検証を行った。着付け体験や野点、ミナミのまちのエキスパートが案内するまち歩きツアーといった体験型のプログラムは、この場所が観光の拠点となることを先取りした取り組みである。三日間好天にも恵まれたこともあり、約九万人の方々がこの広場空間に訪れてくださった。多くの人が横目で見ながらすぐ横を

通り過ぎていくのではないかとという心配は杞憂に終わり、ひろばや通路はもう少し広い方が良いとのご意見を多くたまわった。来街者アンケートでは九割を超える方が広場化を進めることに賛同していただき強く背中を押してもらったこととなった。そしてなによりこの空間のベンチやイスに座り楽しそうに自分達の時間を過ごしておられた人々の姿を見るにつけ、これまでの方向性は間違っていないかったと関係者みんなが同じ思いを持てたことはなにより成果であった。

ワクワクできる空間へ

私が持つこの空間のゴールイメージはデイズニールンドのエントランスゲートである。今からどのようにして楽しむのか「ワクワク」する感じが自然とわき起こるそのような空間。駅前広場を訪れた人がこれからの数時間（あるいは数日間）ミナミのまちを、また大阪でどのようなことを過ごして楽しむのかワクワクできる空間にできればそこは最高の空間になっていると思う。そしてミナミのまちの関係者である我々もワクワク感を裏切らないまちをこれからもつくっていきたい。



「なんばひろば」全景



広場現況

大阪府知事賞 シマノ本社工場



建築位置：堺市堺区老松町 3-77

完成年月：2015 年 3 月

主用途：事務所 工場

建築主：(株)シマノ

設計者：芦原太郎建築事務所

施工者：大林組・コーナン建設共同企業体

撮影者：野田東徳

〈講評〉第一種住居地域に隣接した本社工場であることに配慮し、歩道整備や敷地周囲に四季折々の景観を楽しめる緑地を整備するとともに、電柱の地中化を自ら率先したり、ショールームのようなガラス張り職員駐輪場や緑量の多い緑化駐車場を整備することで、完成度の高い地域景観を創造している。既整備の建物を含め愛情を持って環境を維持し、将来に渡り地域の景観形成に寄与していくとする企業姿勢にも敬意を表します。（審査委員 古田和夫）

大阪市長賞 日本生命本店ビル群



建築位置：大阪市中央区今橋 3 丁目

完成年月：本館 1962 年 5 月、南館 1959 年 3 月、東館 2014 年 12 月

主用途：事務所

建築主：日本生命保険相互会社

設計者：東館／(株)日建設計

南館／(株)大林組、(株)日建設計（外壁デザイン監修）

本館／(株)日建設計、(株)大林組（改修設計）

施工者：東館／大林組・竹中工務店共同企業体

南館／大林組・銭高組・藤木工務店共同企業体

本館／大林組・藤木工務店共同企業体

撮影者：清水向山

〈講評〉1962 年に竣工した本館の外観にあわせて、東館が新築、南館が改修された。重厚な石積みの建築が 3 棟並び建つ街区は、成熟した船場のまちにあって、圧倒的な存在感と品格を示す。あえて今、石積みの格調高い建築群を志向する態度に、大阪を創業の地とする企業と設計事務所の自負心を感じた。建物の周囲では、御堂筋側にライトアップ、適塾へと続く内北浜通沿いには並木道と彫刻、愛珠幼稚園と向かい合う井池通側には豊かな緑量のプロムナードを設けるなど、通りのコンテクストに寄り添う環境整備が行われる。都市の担い手としての高い見識にもとづく、まちへの貢献に敬意を表したい。優れた都市景観が、この街区から大阪全体へと広がることを願う。（審査委員 中嶋節子）

審査員特別賞 立命館大学大阪いばらきキャンパス



建築位置：茨木市岩倉町 2-150

完成年月：2015 年 2 月

主用途：学校 公会堂・集会場

建築主：(学)立命館

設計者：(学)立命館キャンパス計画室（基本構想・設計監修）

(株)山下設計（基本設計）

(株)竹中工務店

施工者：(株)竹中工務店

撮影者：庄野 新

〈講評〉まず目を引くのは、塀を設けず隣接する岩倉公園と一体的なランドスケープを形成している点である。また、古来の条里制でできている地域軸に合わせ建物の配置軸を形成することで、歴史性・地域性を尊重した景観を構成している。学生の主動線となる南北の「学びの軸」には、敷地に起伏の変化を持たせることで校舎の 2 階部分へと誘う工夫がなされており、景観的にも変化を生み出している。さらに、新名神高速道路の整備により失われつつある里山の構成種でキャンパス内に新たな里山を設置する工夫も好感が持てる。

（審査委員長 久 隆浩）

第36回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)入賞作品

主催 大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(一社)日本建築協会

◆表彰目的 周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心とするまちなみを表彰することにより、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図ることを目的とする。

◆対象 大阪府域内の建物(平成23年10月1日から平成27年7月31日までに完成したもの)及び建物を中心としたまちなみ(平成27年7月31日までに完成したもの)で、一般の方々から推薦を受けたもの。

◆審査委員 ※50音順 審査委員長*

指田孝太郎(建築)
(公社)大阪府建築士会相談役

夏原 見子(デザイン)
美術造形デザイナー

古田 和夫(建築)
(公社)日本建築家協会近畿支部・大阪地域会副地域会長

下村 泰彦(造園)
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

久 隆浩*(都市計画)
近畿大学総合社会学部環境・まちづくり系専攻教授

吉村 慎吾(報道)
読売新聞大阪本社社会部長

中嶋 節子(建築)
京都大学大学院人間・環境学研究科教授

藤本 英子(芸術)
京都市立芸術大学美術学部デザイン学科教授

◆審査総評

本年の審査対象74件(建物68件、まちなみ6件)から、例年通り審査資料にもとづいた1次審査で12件を選出し、現地審査による2次審査を行った。最終選考では、昨年度同様に大阪府知事賞、大阪市長賞、審査員特別賞の三賞候補は、すんなり決まった。これらは外の作品にくらべ抜きん出た評価を獲得したものである。

大阪市長賞を受賞した日本生命本店ビル群、大阪府知事賞を受賞したシマノ本社工場、審査員特別賞を受賞した立命館大学大阪いばらきキャンパスともに街区を形成する作品であり、建築物・建築物群が良好な景観をかたちづくっている。日本生命本店ビル群は、東館の建替えに合わせて南館の外壁を石張りに換え、すべての建物を本館の意匠に合わせる工夫を

行っている。また、建物周囲の街路を無電柱化するとともに、石畳風の舗装とし、建築物群と街路が一体となって質の高い市街地景観を形成している。シマノ本社工場は、住工混在地域にあって、ひととき良質なデザインの建物とすることで地域の景観向上に貢献している。とくに、通常は雑然としがちな自転車駐輪場を屋内に設置し整然と見せている点は、自転車メーカーならではの創意工夫である。立命館大学大阪いばらきキャンパスは、塀を設けず隣接する岩倉公園とオープンスペースを一体化させたり、敷地に起伏をつけたりとさまざまな工夫を施している。

緑化賞を受賞したさかい利品の杜は、沿道緑化だけでなく、隣接施設との間に通り抜けの緑道を設置するなど、市街地

の緑化に貢献している。また、建築サイン・アート賞の船場センタービルのリニューアルは、外壁にアルミパネルを設置し、間接照明で夜間でも明るく見せるなど、高架道路下において殺伐としていたデザインを明るいものに変えている。

奨励賞も含めて、今回の受賞作品は、事務所、工場、大学、文化施設、商業施設、劇場とバラエティゆたかなものとなった。さまざまな施設が地域景観を意識し、大阪のまちなみの質を高めていくことをこれからも期待したい。



審査委員長 久 隆浩

審査風景



奨励賞 大阪歯科大学 創立100周年記念館



建築位置：大阪市中央区大手前 1-5-17 設計者：(株)日建設計
完成年月：2013 年 3 月 施工者：西松建設(株)
主用途：学校 撮影者：古田雅文
建築主：(学)大阪歯科大学

〈講評〉シンボルとなる民間の建築はこうあるべき、とさえ思わせる配慮がある。隣地既存大学施設の色彩を引き継ぎ、将来奥に建設予定の大学建物との関係性と周辺マンションへの配慮から高さを設定。正面ハニカムタイルスクリーンが、素材の技で高品質感を醸し出している。（審査委員 藤本英子）

奨励賞 YANMAR FLYING-Y BUILDING



建築位置：大阪市北区茶屋町 1-32
完成年月：2014 年 9 月
主用途：事務所 商業施設
建築主：セイレイ興産(株)
設計者：(株)日建設計
施工者：(株)竹中工務店
撮影者：東出写真事務所

〈講評〉筒状のアルミルーバー材に人工土壌を不織布で包んだ新開発の植栽ユニットにより、建築外装材と壁面緑化の一体化と内部からも楽しめる壁面緑化を、確かな技術により実現していることを評価します。（審査委員 古田和夫）

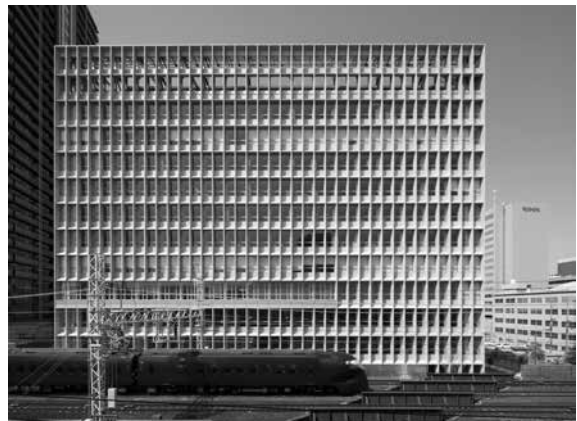


奨励賞 Zepp Namba(OSAKA)



建築位置：大阪市浪速区敷津東 2-1-39 設計者：(株)大林組
完成年月：2012 年 3 月 施工者：(株)大林組
主用途：ライブホール 撮影者：(株)伸和
建築主：(株)Zepp ホールネットワーク

奨励賞 南海なんば第1ビル



建築位置：大阪市浪速区敷津東 2-1-41 設計者：(株)大林組
完成年月：2012 年 12 月 施工者：南海辰村建設(株)・
主用途：事務所 (株)大林組（施工協力）
建築主：南海電気鉄道(株) 撮影者：新建築社

〈講評〉なんばパークスに始まった難波再開発の南端に建つ南海本社ビルの低層部には大阪府立大学の生涯学習の拠点として“垣根のない大学”はガラス張りの空間と共に“まちライブラリー”のゆったりした本箱が大きい端正な建物の威圧感を和らげライブホールと中庭で繋がる。トラッカー一台での全国ツアーを可能に機能的でゆとりある搬入口。開演を待つ観客が集うホール周辺の夜の風景をもう一度みたくて再び暗くなった空間へもどると、二つの建物から漏れる光の谷間のような中庭に樹々の影を浮かべ昼間の雑多さと変わり建物の対比と明りが物語の背景のように奥深い。なんば北端から南端迄誘導するプロムナードを待つばかりである。（審査委員 夏原晃子）

奨励賞 三井住友銀行大阪本店ビル

建築位置：大阪市中央区北浜 4-6-5
完成年月：1930 年 7 月
主用途：事務所
建築主：(株)三井住友銀行
設計者：(株)日建設計
施工者：(株)大林組・(株)鴻池組・(株)浅沼組共同企業体
撮影者：(株)エスエス大阪

〈講評〉1930 年竣工以来、凜として中之島の風景であり続ける「三井住友銀行大阪本店」外観は 85 年来の意匠と歴史をふまえて、現代のニーズに合うリニューアルがなされた。綿密な環境配慮をコンセプトとし、耐震設備環境への工夫など内部外部への取組は歴史を含めて学ぶ機会でもあったと聞く。（審査委員 夏原晃子）

緑化賞 さかい利晶の杜



建築位置：堺市堺区宿院町西2丁-1-1
完成年月：2015年2月
主用途：文化観光拠点
建築主：堺市
設計者：東畑・ダイシン設計共同体
施工者：橋爪・日野建設工事共同企業体
撮影者：野口兼史

〈講評〉堺市立歴史文化にぎわいプラザである本施設は、施設全体を囲う植栽樹木により「緑の環濠」を連想させるだけでなく、建築物エントランス横の水辺を連想させるシダレヤナギが中世環濠都市としての堺のイメージを創出させている。また、西側のプロムナードにおいては、カスミザクラ、コナラ、ヤマボウシ等の落葉高木が季節感のある里山の風景を醸し出し、曲線を用いた園路と高木植栽とがヒューマンスケールの緑地空間を演出していた。

(審査委員 下村泰彦)

建築サイン・アート賞 船場センタービルのリニューアル



建築位置：大阪市中央区船場中央1丁目から4丁目地内
完成年月：2015年5月
主用途：事務所 商業施設
建築主：船場センタービル区分所有者会
設計者：(株)石本建築事務所
施工者：(株)熊谷組
撮影者：(株)エスエス大阪

〈講評〉ビジネス街の中心で高速道路の高架下につながる1kmのビル。それだけでも特殊な存在であるが、竣工から45年を経た老朽化への対応が、そのイメージを一新させた。繊維のまちのイメージを明確に示すために、着物の小紋模様を抜いたアルミパネルで包み込んだ建物は、将に建築そのものがサインとも言える存在になった。1から10号館までのそれぞれを日本の伝統色で識別させ、横切る9つの筋の名称と号数のグラフィカルな表現が魅力を増幅している。

(審査委員 藤本英子)

審査風景



理事会報告

文責 本会事務局

日時 一月十八日（水）十六時～十八時

場所 本会会議室

出席 理事三五名 監事一名

（1）一二月の当期経常増減額は、収入一四、六〇二、五一五円、支出一三、五一五、八六三円、差引一、〇八六、六五二円で、本年度累計の収支差引は一五、八二五、九九六円を報告して承認されました。

（2）収支状況は事業全体に予算を充足せず、一部事業では赤字計上となっていることから、約△二六〇万円の収支赤字が見込まれることを報告しました。正副会長より、委員長並びに担当理事に対して、所管する委員会・分科会の個々の事業活動の収支状況を精査・把握し、年度末までに当初の予算を達成できるよう検討を行い、収支状況の改善を実行するよう要請されました。

（3）平成二八年六月に建物状況調査の活用等と内容とする宅地建物取引業法の改正が行われ、平成三〇年四月から施行されます。これにより、建物状況調査実施者（既存住宅状況調査技術者）は、新たに創設される講習制度による講習を修了した建築士が担うこととなります。連合会では講習機関として国の登録を受け、全国単位会で当該講習を積極的に実施することを検討していることを報告し、本会でも建築士会インスペクター登録者の取り扱い方とともに実施に向けて検討を始めることとしました。

（4）一九九年度定時総会の記念講演会は、山口健氏（大阪弁護士会会長）にお願いし、弁護士会からみた建築士会の活動、両会による災害時の相談協力、今後の課題と将来像等についてご講演いただくことを承認しました。

建築相談室から十

雨漏りが止まらない

文 橋本頼幸

築三年雨漏りが止まらない

鉄骨三階建ての店舗付き住宅。三年前に着工したが雨漏りのため工事が完了していない。何度も補修はしているが直らないため、引き渡しは受けていない。施工者から、工事残金は放棄するので、手を引かせて欲しいと一方的に通知してきた。今後どうしたらいいか。（消費者センターからの紹介）

問題点の整理

まず相談者に確認することは、この建物の入手した経緯でしょう。請負契約なのか売買契約か、設計・監理を別に依頼したかどうか、を整理して、想定される問題ごとに誰に何を要求することができるのかをまとめます。設計・監理を依頼したのであれば、設計監理者に雨漏りの原因を調査依頼することが先決でしょう。売買契約であれば売り主または仲介業者の原因調査をしてもらうこととなります。「引き渡しを受けていない」との発言から、請負契約の可能性が高いと考えられます。その場合であっても、設計者と施工者は同一なのか異なるのかも確認ポイントです。

次に、相談者は工事開始後三年たつて、工事が完了していない、引き渡しを受けていない、という認識を示しています。電話相談の段階では、どちらか片方からしか話を聞くことはできません。従って、施工者である相手方も引き渡しをしていない認識なのか大切なポイントです。何をもって引き渡しと見なすのか、明確な定義があるわけではありませんが、一般的には鍵を引き渡すなどの実質的な支配が委譲した場合に引き渡しと見なされます。しかし、取

引が常にわかりやすい形であるとは限りません。ましてトラブルに進展してしまうと両者の意見が食い違っていることもよくあります。相談者がするべきこと

相談者は契約書を確認して、契約がどうなっているのかを正しく理解する必要があると思います。次に、施工者が提案している「工事残金の放棄」と建物の引き渡しが見合うものであるかどうかの判断をする必要があります。その判断をするためには、「雨漏り」の原因や補修に必要な費用などを知る必要があります、そのために専門家の調査が必要であることを認識してもらわなければなりません。

専門家がするべきこと

雨漏りの原因調査は当然のことですが、相談の中で、引き渡しを受けていないという相談者の認識が気になります。相談者の言うとおり引き渡しが無済であるとする、三年間工事中であったこととなります。未収代金があるのはやむを得ないとしても、三年間も引き渡しもせずに放置しているとは考えにくく、相談者は実際にこの建物をすでに使用している、つまり実質的な引き渡しを受けているとも考えられます。一方で残代金の額にもよりますが、請求を放棄するというのも思い切った判断だと思えます。ここに問題を解く鍵があると思われれます。

大阪府建築士会の電話相談では

現地相談をおすすめすることになります。建築士が関わることで、良い解決をする可能性があります。建築士が現地を見ることで、雨漏りの原因が明らかになり補修ができれば、施工者にとっても残代金回収の可能性がでます。つまり双方にとって望ましい解決になります。このような建築士の関わり方も、社会に求められる職能の一つではないでしょうか。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪城の北側に大川を挟んで藤田美術館があり、その向かい側に今回取り上げる太閤園（旧淀川邸）は緑豊かな庭園と一体となり存在している。

この建物は、明治大正時代に大阪紡績や阪堺鉄道、宇治川電気などを設立し、関西財界の重鎮だった藤田傳三郎氏が、次男の徳次郎氏のために建てた邸宅だ。

敷地はおよそ七〇〇坪で、明治四三年（一九一〇年）から大正三年（一九一四年）にかけて建てられた。邸宅は本邸・西邸・東邸とも豪壮を誇ったが、残念ながらそのほとんどが昭和二〇年（一九四五年）の大阪大空襲によって失われた。

唯一、戦火を免れた東邸を、藤田観光が昭和三四年（一九五九年）に宴会場・結婚式場・レストランなどが入った多機能施設「太閤園」としオープンさせた。

この施設のすばらしさは、広大な敷地に築かれた築山式回遊庭園と建物群との関係だ。そして太閤園が開業した年から続いているホテル鑑賞会は、大都市大阪の中心部でありながら幻想的な風景をつくり出している。

建築人 2017

監修	公益社団法人大阪府建築士会		
	建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
委員長	飯田英二		
編集人代表	荒木公樹		
編集人	河合哲夫	黒川祐樹	
	中江 哲	橋本頼幸	
	丸子勇人	牧野隆義	
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		

SL810334-W-104



SL812331-W-112



Kartell by **LAUFEN**

LAUFEN 社とイタリアの家具メーカー Kartell 社の共同プロジェクトにより生まれた洗面器シリーズ

SANEI

株式会社 三栄水栓製作所
www.san-ei-web.co.jp



竹中大工道具館新館 小幡剛也・須賀定邦・中西正佳

六甲山の麓に残された“都市の中の森”とも言える環境で、樹木の伐採を最小限とし、既存の茶室・管理棟と併せて和風屋根が敷地内の緑の中にひっそりと連なる風景を目指して、建物は平屋の佇まいとした。地下2層には常設展示スペースと体験学習を行う木工教室を、地上部には多目的ホールを設けた。1階ホールは、六甲山の森との連続性を感じられるよう、ダブルアーチ鉄骨架構により南北の視線の抜けを確保しつつ、その中に和風の繊細なスケール感をもつ杉無垢材の天井ルーバーを入れ込み、木材と鉄の長所が融合したワンルーム空間とした。地下2層にわたる展示空間では、立体的な中庭に吹抜けと動線空間を組合せ、外部の豊かな自然環境を地下でも充分に感じられるものとした。

仕上については、職人や技術者との対話の中から、素材一つ一つの物性・特徴を“技”により最大限に引き出すことで、新たな表現の可能性を追求した。大工・左官といった伝統的職人技術の粋を間近に体験・体感可能としつつ、アルミ放射パネル天井やコンクリート・鉄骨などの現代の職人技術も随所に散りばめた。過去から現代まで綿々と受け継がれてきた技術を、伝統と現代といった区別なく空間に編み込むことで、ものづくりの挑戦心や醍醐味を来訪者にも体感してもらえるのではと考えた。

人と自然をつなぎ、伝統と革新をつなぐ。“ものづくり精神”の結晶となる建築を目指した。

撮影：古川泰造 第8回建築人賞受賞作品

■プロフィール

小幡剛也(竹中工務店)
1969年大阪府生まれ／1993年京都大学大学院
工学研究科卒業後、竹中工務店入社
須賀定邦(竹中工務店)
1972年東京都生まれ／1998年東京大学大学院
工学系研究科卒業後、竹中工務店入社
中西正佳(中西正佳建築設計事務所・設計当時、竹中工務店)
1981年滋賀県生まれ／2007年京都大学大学院
工学研究科卒業後、竹中工務店入社／2016年中
西正佳建築設計事務所開設、近畿大学非常勤講師

■建物データ

設 計：竹中工務店
施 工：竹中工務店
所 在 地：神戸市中央区熊内町7-5-11
主 用 途：博物館
構造規模：鉄骨造・鉄筋コンクリート造
地下2階・地上1階
敷地面積：2,744.30㎡
建築面積：538.97㎡
延床面積：1,884.05㎡

